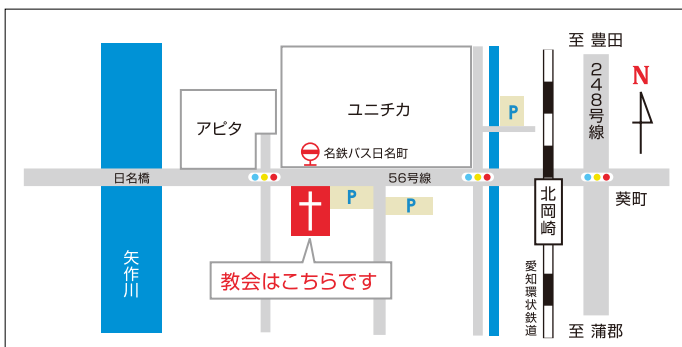


BIBLE + MESSAGE

すべての懲らしめは、そのときは喜ばしいものではなく、かえって悲しく思われるものですが、後になると、これによって訓練された人々に平安な義の実を結ばせます。(ヘブル書 12章 11節)

上記の「懲らしめ」という言葉は、「試練」や「訓練」という言葉に置き換えることができます。神は人間にさまざまな訓練を与えられることを聖書は教えています。それは人間を苦しめることが目的ではありません。親が子どもを愛するがゆえに、子どもの成長のために、さまざまな訓練を与えるのと同じです。しかし、私たち人間にとって、その訓練は決して喜ばしいものではありません。かえって悲しく思われるものである…と、ヘブル書の著者は言います。誰でも、苦しいことやつらいことを経験すると、悲しい気持ちになるものです。しかし、その経験をとおして訓練された人は、大きく成長することができる。この言葉はそのように教えているのです。忍耐深くなります。人の悲しみを理解できるようになります。困難に直面しても、心に平安があります。この聖書の言葉が、窮地に陥った小林富次郎氏や、その他の多くの人たちに力を与えたのです。



- ◆名鉄バス「日名町」前
- ◆愛知環状鉄道「北岡崎駅」から西へ徒歩3分
- ◆アピタ北岡崎店 筋向かい



スマホで上記のQRコードを読み込むと地図を表示できます。

【日曜学校】日曜：午前10時～10時45分 【礼拝】日曜：午前11時～12時半
【午後の集会】日曜：午後3時～4時半 【聖書研究会】木曜：19時半～21時

聖書を読んだ日本人

歯磨き粉や洗剤、石けんなどで有名なライオン株式会社。その前身となる小林富次郎商店の創業者、小林富次郎氏もまた、聖書を読んだ日本人のひとりです。

富次郎がキリスト教に出会ったのは36歳の時でした。彼は当時、神戸に住んでいました。ある日のこと、近くの劇場で聖書の講演会が行われることになりました。富次郎は友人を誘って、この講演会に出席するのですが、この講演会を妨害しようとする若者たちが、突然騒ぎ出したのです。すると、そこに柔道の教師をしている大柄なクリスチャンの男性がやって来ました。それを見た富次郎は、この大男が騒いでいる若者たちを力づくで追い出すのではな

いかと思ったそうです。ところが、その男性は、騒ぐ若者たちに深く頭を下げ、静かにしてくれるよう頼み込んだのです。それを見た富次郎はいたく感動し、熱心に聖書を学ぶようになり、そして、神戸多聞教会の長田時行という牧師から洗礼を受けるに至るのです。その後、彼は実業家としての道を歩み始め、全財産をはたいて宮城県石巻にマツチを製造するための大きな工場を建てます。ところが、洪水が起きて、マツチ製造のための木材がすべて流され、工場も水浸しになってしまふのです。行き詰った富次郎は、自殺することを考えたが、橋の上にたたずんでいました。しかし、身を投げようとしたその瞬間、



小林 富次郎
(こばやし とみじろう)
1852年～1910年

突如、聖書のことばが彼の心にひらめいたそうです(左のページで紹介しています)。それは、彼に洗礼を授けた長田牧師が葉書に書いて送ってくれた聖書のことばでした。

自殺を思いとどまった富次郎は、勇気を振り絞って東京の神田に石けんやマツチの原料を取り次ぐ小林富次郎商店を開設します。その後、彼は歯磨き粉の製造方法を研究し1896年に「獅子印ライオン歯磨」を発売。これが大ヒットすると、会社は大きく成長しました。これが後のライオン(株)の礎となったのです。



当時発売された粉ハミガキ「獅子印ライオン歯磨」